

§ 4.9 内分点と外分点

定義 実数 m, n について $m \geq 0, n \geq 0, m+n > 0$ とする. 座標空間において, 点 A と B とに対して点 P が線分 AB を $m:n$ に内分するとは,

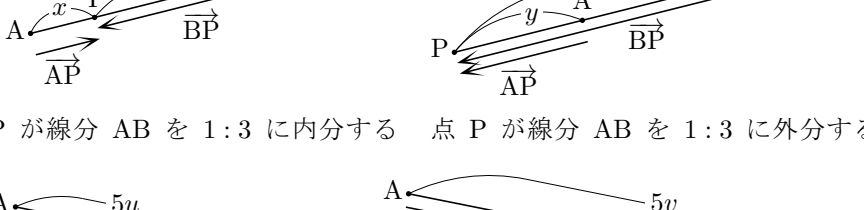
$$\text{ベクトル } \overrightarrow{AP} \text{ と } \overrightarrow{BP} \text{ とが逆の向きで, } \overline{AP} : \overline{BP} = m : n$$

となることであり, $m \neq n$ のとき, \mathbf{R}^2 の点 P が線分 AB を $m:n$ に外分するとは,

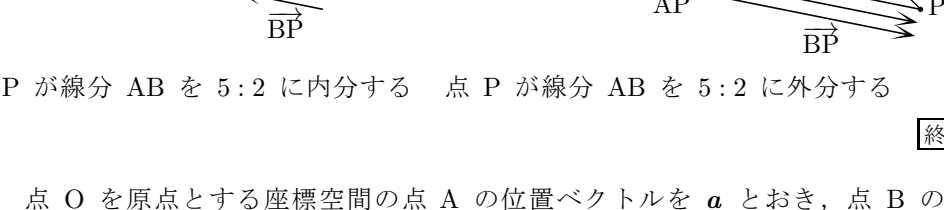
$$\text{ベクトル } \overrightarrow{AP} \text{ と } \overrightarrow{BP} \text{ とが同じ向きで, } \overline{AP} : \overline{BP} = m : n$$

となることである.

例 以下において, A, B, P は座標空間の点を表し, x, y, u, v は長さを表します.



点 P が線分 AB を $1:3$ に内分する 点 P が線分 AB を $1:3$ に外分する



点 P が線分 AB を $5:2$ に内分する 点 P が線分 AB を $5:2$ に外分する

終

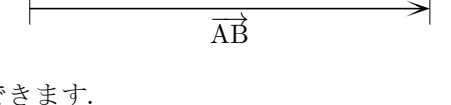
例解 点 O を原点とする座標空間の点 A の位置ベクトルを \mathbf{a} とおき, 点 B の位置ベクトルを \mathbf{b} とおき, 点 P の位置ベクトルを \mathbf{p} とおきます. 点 P は線分 AB を $2:3$ に内分するとします. ベクトル \overrightarrow{AP} と \overrightarrow{BP} とが逆の向きなので, 定理 3.4.4 より $|\overrightarrow{AP}| |\overrightarrow{BP}| = -|\overrightarrow{BP}| |\overrightarrow{AP}|$. $|\overrightarrow{AP}| : |\overrightarrow{BP}| = 2:3$ なので,

$$2\overrightarrow{BP} = -3\overrightarrow{AP},$$

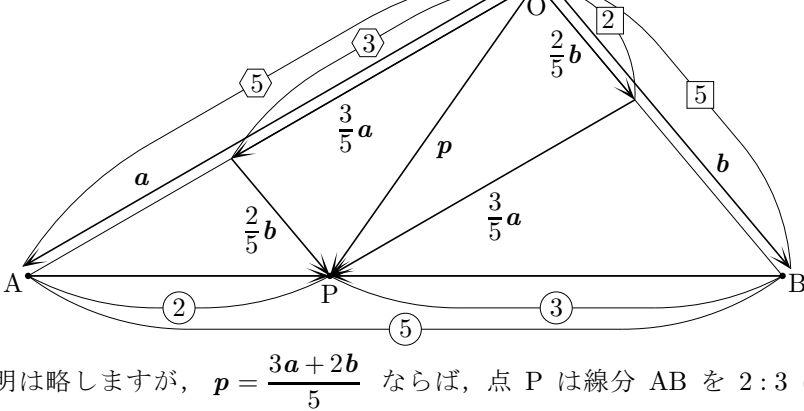
$$2(\mathbf{p} - \mathbf{b}) = -3(\mathbf{p} - \mathbf{a}),$$

$$5\mathbf{p} = 3\mathbf{a} + 2\mathbf{b},$$

$$\mathbf{p} = \frac{3\mathbf{a} + 2\mathbf{b}}{5}.$$



この式は次の図のように考えて導くこともできます.



逆に, 説明は略しますが, $\mathbf{p} = \frac{3\mathbf{a} + 2\mathbf{b}}{5}$ ならば, 点 P は線分 AB を $2:3$ に内分します.

終

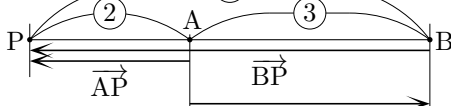
例解 点 O を原点とする座標空間の点 A の位置ベクトルを \mathbf{a} とおき, 点 B の位置ベクトルを \mathbf{b} とおき, 点 P の位置ベクトルを \mathbf{p} とおきます. 点 P は線分 AB を $2:5$ に外分するとします. ベクトル \overrightarrow{AP} と \overrightarrow{BP} とが同じ向きなので, 定理 3.4.4 より $|\overrightarrow{AP}| |\overrightarrow{BP}| = |\overrightarrow{BP}| |\overrightarrow{AP}|$. $|\overrightarrow{AP}| : |\overrightarrow{BP}| = 2:5$ なので,

$$2\overrightarrow{BP} = 5\overrightarrow{AP},$$

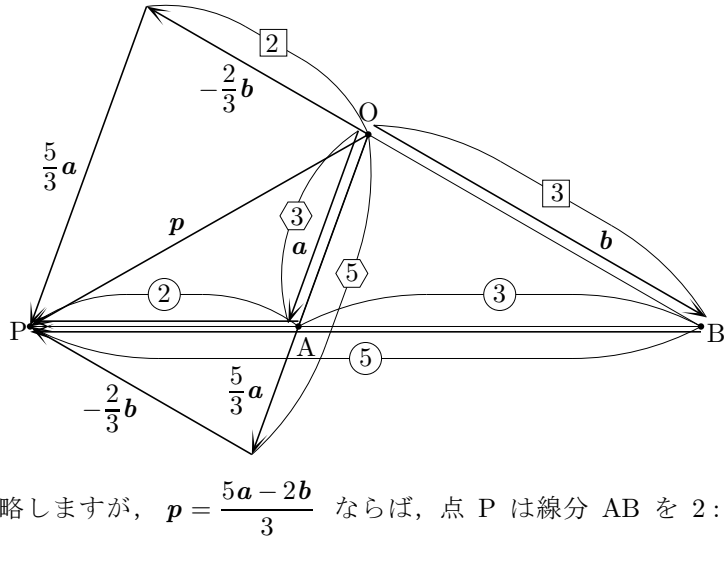
$$2(\mathbf{p} - \mathbf{b}) = 5(\mathbf{p} - \mathbf{a}),$$

$$3\mathbf{p} = 5\mathbf{a} - 2\mathbf{b},$$

$$\mathbf{p} = \frac{5\mathbf{a} - 2\mathbf{b}}{3}.$$



この式は次の図のように考えて導くこともできます.



逆に, 説明は略しますが, $\mathbf{p} = \frac{5\mathbf{a} - 2\mathbf{b}}{3}$ ならば, 点 P は線分 AB を $2:5$ に外分します.

終

一般的には次の定理が成り立ちます.

定理 4.9 実数 m, n について $m \geq 0, n \geq 0, m+n > 0$ とする. 座標空間の点 A の位置ベクトルを \mathbf{a} とおき, 点 B の位置ベクトルを \mathbf{b} とおき, 点 P の位置ベクトルを \mathbf{p} とおく. このとき,

$$\text{点 } P \text{ が線分 } AB \text{ を } m:n \text{ に内分する} \iff \mathbf{p} = \frac{n\mathbf{a} + m\mathbf{b}}{n+m},$$

$m \neq n$ のとき

$$\text{点 } P \text{ が線分 } AB \text{ を } m:n \text{ に外分する} \iff \mathbf{p} = \frac{n\mathbf{a} - m\mathbf{b}}{n-m}.$$

証明 $A \neq B$ のときを考える.

$$\overrightarrow{AP} = \mathbf{p} - \mathbf{a}, \quad \overrightarrow{BP} = \mathbf{p} - \mathbf{b}, \quad |\overrightarrow{AP}| = \overline{AP}, \quad |\overrightarrow{BP}| = \overline{BP}.$$

点 P が線分 AB を $m:n$ に内分すると仮定する. ベクトル \overrightarrow{AP} と \overrightarrow{BP} とが逆の向きなので, 定理 3.4.4 より

$$|\overrightarrow{BP}| |\overrightarrow{AP}| = -|\overrightarrow{AP}| |\overrightarrow{BP}|,$$

$$\overrightarrow{BP}(\mathbf{p} - \mathbf{a}) = -\overrightarrow{AP}(\mathbf{p} - \mathbf{b}),$$

$\overline{AP} : \overline{BP} = m : n$ なので

$$n(\mathbf{p} - \mathbf{a}) = -m(\mathbf{p} - \mathbf{b}),$$

$$(n+m)\mathbf{p} = n\mathbf{a} + m\mathbf{b},$$

$m+n > 0$ なので $\mathbf{p} = \frac{n\mathbf{a} + m\mathbf{b}}{n+m}$.

$m \neq n$ で, 点 P が線分 AB を $m:n$ に外分すると仮定する. ベクトル \overrightarrow{AP} と \overrightarrow{BP} とが同じ向きなので, 定理 3.4.4 より

$$|\overrightarrow{BP}| |\overrightarrow{AP}| = |\overrightarrow{AP}| |\overrightarrow{BP}|,$$

$$\overrightarrow{BP}(\mathbf{p} - \mathbf{a}) = \overrightarrow{AP}(\mathbf{p} - \mathbf{b}),$$

$\overline{AP} : \overline{BP} = m : n$ なので

$$n(\mathbf{p} - \mathbf{a}) = m(\mathbf{p} - \mathbf{b}),$$

$$(n-m)\mathbf{p} = n\mathbf{a} - m\mathbf{b},$$

$n-m \neq 0$ なので $\mathbf{p} = \frac{n\mathbf{a} - m\mathbf{b}}{n-m}$.

$\mathbf{p} = \frac{n\mathbf{a} + m\mathbf{b}}{n+m}$ と仮定する.

$$\overrightarrow{AP} = \mathbf{p} - \mathbf{a} = \frac{n\mathbf{a} + m\mathbf{b}}{n+m} - \mathbf{a} = \frac{-m\mathbf{a} + m\mathbf{b}}{n+m} = -\frac{m}{n+m}(\mathbf{a} - \mathbf{b}),$$

$$\overrightarrow{BP} = \mathbf{p} - \mathbf{b} = \frac{n\mathbf{a} + m\mathbf{b}}{n+m} - \mathbf{b} = \frac{n\mathbf{a} - n\mathbf{b}}{n+m} = \frac{n}{n+m}(\mathbf{a} - \mathbf{b}).$$

$-\frac{m}{n+m} \cdot \frac{n}{n+m} = -\frac{mn}{(n+m)^2} \leq 0$ なので, 定理 3.4.3 より \overrightarrow{AP} と \overrightarrow{BP} とは逆の向きである. また, $A \neq B$ より $|\mathbf{a} - \mathbf{b}| \neq 0$ なので,

$$\overline{AP} : \overline{BP} = |\overrightarrow{AP}| : |\overrightarrow{BP}| = \frac{m}{n+m}|\mathbf{a} - \mathbf{b}| : \frac{n}{n+m}|\mathbf{a} - \mathbf{b}| = m : n.$$

故に点 P は線分 AB を $m:n$ に内分する.

$m \neq n$ で, $\mathbf{p} = \frac{n\mathbf{a} - m\mathbf{b}}{n-m}$ と仮定する.

$$\overrightarrow{AP} = \mathbf{p} - \mathbf{a} = \frac{n\mathbf{a} - m\mathbf{b}}{n-m} - \mathbf{a} = \frac{m\mathbf{a} - m\mathbf{b}}{n-m} = \frac{m}{n-m}(\mathbf{a} - \mathbf{b}),$$

$$\overrightarrow{BP} = \mathbf{p} - \mathbf{b} = \frac{n\mathbf{a} - m\mathbf{b}}{n-m} - \mathbf{b} = \frac{n\mathbf{a} - n\mathbf{b}}{n-m} = \frac{n}{n-m}(\mathbf{a} - \mathbf{b}).$$

$\frac{m}{n-m} \cdot \frac{n}{n-m} = \frac{mn}{(n-m)^2} \geq 0$ なので, 定理 3.4.3 より \overrightarrow{AP} と \overrightarrow{BP} とは同じ向きである. また, $A \neq B$ より $|\mathbf{a} - \mathbf{b}| \neq 0$ なので,

$$\overline{AP} : \overline{BP} = |\overrightarrow{AP}| : |\overrightarrow{BP}| = \frac{m}{n-m}|\mathbf{a} - \mathbf{b}| : \frac{n}{n-m}|\mathbf{a} - \mathbf{b}| = m : n.$$

故に点 P は線分 AB を $m:n$ に外分する. (証明終り)

例題 座標平面の点 $(4,7)$ と点 $(-6,3)$ とを結ぶ線分を $5:2$ に内分する点 P を求めよ.

ベクトル $(4,7)$ と $(-6,3)$ とに対して, 点 P の位置ベクトルは

$$\frac{2(4,7) + 5(-6,3)}{2+5} = \frac{(8,14) + (-30,15)}{7} = \frac{(-22,29)}{7} = \left(-\frac{22}{7}, \frac{29}{7}\right).$$

よって $P = \left(-\frac{22}{7}, \frac{29}{7}\right)$.

終

問題 4.9.1 座標平面の点 $(1,4)$ と点 $(5,-9)$ とを結ぶ線分を $2:7$ に内分する点 P を求めなさい.

例題 座標平面の点 $(8,9)$ と点 $(4,5)$ とを結ぶ線分を $7:2$ に外分する点 P を求めよ.

ベクトル $(8,9)$ と $(4,5)$ とに対して, 点 P の位置ベクトルは

$$\frac{2(8,9) - 7(4,5)}{2-7} = \frac{(16,18) - (28,35)}{-5} = \frac{(-12,-17)}{-5} = \left(\frac{12}{5}, \frac{17}{5}\right).$$

よって $P = \left(\frac{12}{5}, \frac{17}{5}\right)$.

終

問題 4.9.2 座標平面の点 $(1,6)$ と点 $(2,4)$ とを結ぶ線分を $8:5$ に外分する点 P を求めなさい.

例題 座標平面の点 A の位置ベクトル \mathbf{a} と点 B の位置ベクトルを \mathbf{b} とは平行でないとする. 直線 AB に属する点 P の位置ベクトルがベクトル $7\mathbf{a} - 4\mathbf{b}$ と平行であるとき, P は線分 AB をどのような比に内分あるいは外分する点か調べる.

\mathbf{a} と \mathbf{b} とは, 平行でないので, 線形独立である. 定理 3.7.3 より $7\mathbf{a} - 4\mathbf{b} \neq \mathbf{0}$. 点 P の位置ベクトル \mathbf{p} がベクトル $7\mathbf{a} - 4\mathbf{b}$ と平行なので, 定理 3.5.4 より, ある実数 k をとると $\mathbf{p} = k(7\mathbf{a} - 4\mathbf{b}) = 7k\mathbf{a} - 4k\mathbf{b}$. 点 P は直線 AB に属するので, 定理 3.5.2 より, $7k - 4k = 1$, $k = \frac{1}{3}$. よって

$$\mathbf{p} = \frac{7}{3}\mathbf{a} + \frac{4}{3}\mathbf{b} = \frac{7\mathbf{a} - 4\mathbf{b}}{7-4}.$$

定理 4.9 より, 点 P は線分 AB を $4:7$ に外分する. (証明終り)

問題 4.9.3 座標平面の点 A の位置ベクトルを \mathbf{a} と点 B の位置ベクトルを \mathbf{b} とは平行でないとします. 直線 AB に属する点 P の位置ベクトルがベクトル $5\mathbf{a} + 3\mathbf{b}$ と平行であるとき, P は線分 AB をどのような比に内分あるいは外分する点か調べなさい.

問題 4.9.4 座標平面の点 A の位置ベクトルを \mathbf{a} と点 B の位置ベクトルを \mathbf{b} とは平行でないとします. 直線 AB に属する点 P の位置ベクトルがベクトル $-2\mathbf{a} + 9\mathbf{b}$ と平行であるとき, P は線分 AB をどのような比に内分あるいは外分する点か調べなさい.

座標空間の点 A と B とに対して, 線分 AB を $1:1$ に内分する点を線分 AB の中点といいます. 定理 4.9 よりすぐに次の定理が導けます.

定理 座標空間の点 A の位置ベクトルを \mathbf{a} と, 点 B の位置ベクトルを \mathbf{b} とおくと, 線分 AB の中点の位置ベクトルは $\frac{\mathbf{a} + \mathbf{b}}{2}$.